右：オオムラサキ
左：ゴマダラチョウ

ある日のフィールド・ノートから

ムシのぬ・く・も・り

■オオムラサキという昆虫をご存知でしょうか。オオムラサキは日本の国蝶に指定されているチョウの一種で、いくつかの文献では環境の指標種や希少種として選定されている昆虫です。幼虫は食樹であるエノキの根元の落葉の裏で越冬するため、冬期に確認しやすい昆虫といえます。

■ですから、昆虫類調査では冬期にオオムラサキの越冬幼虫探しがよくあります。幼虫調査は、さきほども述べましたとおり食樹であるエノキの根元の落葉の裏を探すわけですが、最初の１個体目が見つかれば、続いて２個体、３個体と見つかることが多く、１ヶ所にかかる時間はそれほどでもないのですが、最初の１個体目が発見できないとついついそこでねばってしまい、エノキが複数ある場合は（そういうことの方が多いのですが）時間だけが過ぎて行き、ノルマを果たせなくなってしまいます。

■ある時、とある場所でオオムラサキの越冬幼虫調査を行なっていたのですが、探せど探せど見つからず、もうこの木にはいないと諦めかけた時に、落葉に何やら怪しげな物が付いているのを見つけたのです。それは一見、見過ごしてしまいそうな何の変哲もないエノキの落葉なのですが、よく見ると、幼虫が作った“台座”が付いているではないですか。

“台座”というのは、幼虫が越冬の為に落葉の裏面に糸を吐いて作る足場のようなもので、その“台座”にしっかりと密着して越冬するわけです。

“台座”のある葉が見つかれば、そしてその葉がその年に落葉した新しい葉である以上、幼虫は一度その葉で越冬体勢に入ろうとしたことは確かだといえると思います。つまり、もっと探せばその木の根元には幼虫がいる可能性が高いと考えられるのです。案の定、そこでも幼虫が見つかりましたが、残念ながらオオムラサキではなくゴマダラチョウでした。

■ゴマダラチョウはオオムラサキと同じ科で、幼虫は生態も形態もよく似ていますが、背中の突起の数の違いで容易に区別することができます。

■というわけで、幼虫そのものが見つからなくてもエノキの落葉についた“台座”が見つかれば、大きさ、生態等からオオムラサキもしくはゴマダラチョウの２種のどちらかがいる、もしくはいたことになります。

■これを発見したのは偶然に過ぎませんが、これからも、どんなに些細なことでもよいので、目的とする昆虫の生息の痕跡を見つけられるように日々精進していきたいと思います。

（大阪支社自然環境調査室・平原健一）

INFORMATION 業務推進室が発足しました

４月１日より本社に業務推進室を新設いたしました。業務が円滑かつ効率的に遂行されるよう、室員一同努力する所存です。担当者不在の場合は業務推進室のメンバーでも対応いたします。今後ともどうかよろしくお願いいたします。（業務推進室長・北川徹）

編集後記

３月も半ば過ぎ、植木鉢のコクランが花を咲かせた。自生のものは６月頃花を咲かせるらしいが室温が高かったせいなのか通常より二ヵ月も早く咲いたことになる。そのコクランはいずれ標本になる予定だったのだが、時間がとれないまま一ヵ月以上もの間、冷蔵庫に寝かされていたのだ。植木鉢に植えかえてから約二ヵ月後、新芽が伸び、新しい葉が開き、そして後に小さな黒紫色の花を咲かせたのである。

素晴らしい！ブラボー！ワンダフル！が、しかし、喜びもつかの間、エネルギーを使い果たしたかのようにその姿は弱々しく元気がなくなってきてしまった。「日に当てた方がいいんじゃないのー？」の声にうなずき、鉢を日当たりの良いテラスに置いた。週末あけて月曜日、水をやりにテラスに出てみると、そこには全身まっ白の、変わり果てた姿のコクランがあった……。一瞬、立ち尽くした。ショックは大きい。だけど暖かい室内からいきなり外の世界に放り出されたコクランの方がもっとビックリしたに違いない。春一番の悲しい事件である。（本社業務推進室・西邑恵子）

News Letter vol.3 ● 1996年４月

【発行】……株式会社地域環境計画
編集●西邑恵子・南谷佳世

■東京本社
〒154 東京都世田谷区桜新町2-22-3 NDSビル
TEL 03-5450-3700／FAX 03-5450-3701
◆営業窓口……逸見一郎・中山尚子

■大阪支社
〒154 大阪府高槻市古曽部町1-1-8
TEL 0726-84-3182／FAX 0726-84-3184
◆営業窓口……中山香代子・津田洋子